

浄土宗の「戦時資料」に関する専門委員会委員長

## 大谷栄一先生寄稿

# 戦時資料検証の意義

### 歴史的検証の重要性

令和2年(2020)を迎えた。アジア・太平洋戦争の終戦から75年の節目の年である。『週刊佛教タイムス』2020年1月1日号では、「教団の戦争責任と平和活動」に関する特集記事が掲載されている。戦後、各宗派がどのように平和活動を担い、戦争の悲惨さを語り伝えてきたのか、その取り組みが紹介されている。

浄土宗については、本協会の前身である浄土宗平和推進協議会の設立(1990年)、広島、長崎、沖縄での戦没者追悼法要や平和祈念事業の展開等が取り上げられたうえで、平成20年(2008)に当時の稲岡康純宗務総長が発表した「浄土宗平和アピール」が紹介されている。

この平和アピールには、「わたしたちは、(中略)浄土宗が世法の国策に従いかなる言動を行ってきたか、歴史的検証を行うことこそ、世界平和の実現に、あらためて必要なことだと確信します」の文言がある(浄土宗公式WEBサイト「宗派声明」掲載)。つまり、世界平和の実現のために、戦時中の浄土宗の活動の歴史的検証の重要性が説かれている。

昨年(2019年)11月、本協会の第1回専門委員会(浄土宗の「戦時資料」に関する専門委員会)が催され、今後、浄土宗の「戦時資料」を検証するための方針が協議された。本委員会に出席した専門委員の一人として、この検証作業の意義について述べてみたい。

### 各宗派の「戦争責任」の表明

本誌32号巻頭には、本協会の広瀬卓爾理事長による「新理事長就任の弁『浄土宗としての平和課題』の構築と実践を」が掲載されている。このなかで広瀬師は本協会の大きな課題の一つとして、「いわゆる『戦争責任』に関する総括ないし検証」を挙げている。かつて浄土宗総合研究所が収集した戦時下の浄土宗に関する貴重な史資料(後述)があるので、協会の専門委員と当該領域を専門とする研究者の協力を得てそれらの史資料に関する「一定のまとめ」を作成し、宗務総長に報告する旨が述べられている。

本稿では比較のために他宗派の戦争責任表明の動向を紹介したうえで、戦争責任と平和問題に対する浄土宗の取り組みをあらためて確認してみよう。なお、この問題については、宗教情報センターの藤山みどり氏による研究レポート「宗教界の歴史認識～戦争責任表明とその後(年表付き)」(宗教情報センターWEBサイト掲載)が詳しく、以下、参考にした。

そもそも日本の宗教界で戦争責任を最初に表明したのは、昭和42年(1967)の日本基督教団である。終戦から22年を経てのことである。仏教教団はさらに遅い。その表明は、真宗大谷派が嚆矢とされる。日中戦争勃発から50年目の昭和62年(1987)に催された「全戦没者追弔法会」で「慙愧の念」が表明された(ただし、浄土真宗本願寺派は1981年に始まる千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要の案内文で戦争協力に言及)。

## ◆大谷栄一先生寄稿

その後、浄土真宗本願寺派の宗会決議（1991年）、曹洞宗の「懺悔文」（1992年）、真宗大谷派の「不戦決議」（1995年）、臨済宗妙心寺派の「宗議会宣言文」（2001年）と続いた。

つまり、日本の仏教教団が「戦争責任」を正式に表明したのは、終戦から40年以上を経た1980年代後半以降なのである。その背景には、昭和64＝平成元年（1989）の昭和天皇の崩御、平成2年（1990）の湾岸戦争の発生、平成7年（1995）

## 浄土宗の「戦争責任」の表明

の戦後50周年といった時代状況もあった。

では、浄土宗の場合はどうか。歴史を遡ると、浄土宗では昭和29年（1954）10月の『宗報』452号の巻頭言「怨讎を越へた善行」で、「かつての軍国時代に横暴の剣を振り廻した悪業に対して懺悔の念を固く」することが強調され、「真実に世界に平和を将来する」ことが訴えられた。

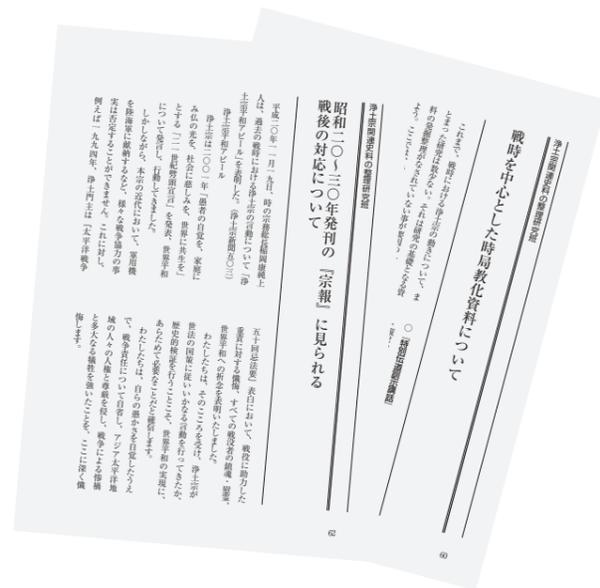
その後、かなり時代を下るが昭和60年（1985）の第5回浄土宗教化推進会議で採択された「金沢会議アピール」（「永遠の平和」に向けて限りなき精進を宣言）や、昭和63年（1988）の第8回浄土宗教化推進会議での平和団体結成の決議を踏まえて、平成2年（1990）に宗内に設立されたのが、浄土宗平和推進協議会である（2006年に会員制の浄土宗平和協会に移行）。

その設立大会が総本山知恩院・和順会館で同年12月4日に行われ、約120名が参加した（『中外日報』平成2年12月10日号）。当時の藤井實應門主が「本協議会の設立は宗祖法然上人の万民平等救済を主眼としたお念仏の御教えと、無量寿経に説き示されている『天下和順にして兵戈用いること無し』との御文に基づいて、本宗僧侶自らが平和に対する心眼を開き、教化の実を挙げる事が本旨である」と垂示されたと報じられている

（同）。

平成6年（1994）2月11～13日、沖縄で「太平洋戦争戦没者五十回忌浄土宗法要・念仏者による平和請願のつどい（第4回平和推進大会）」が開催された（『宗報』891号、1994年）。この法要・つどいの際、当時の中村康隆門主によって読み上げられた「表白」に注目されたい。「法然門徒も兵役に随い仏具の供出を推進するなど戦役に助力せし重責真に大なりし 懺悔の心情 年月と共に益々広がりを増しつつあり」と、表明された（同）。

また、平成20年（2008）11月には冒頭で紹介した「浄土宗平和アピール」が公表された。この中で「本宗の近代において、軍用機を陸海軍に献納するなど、様々な戦争協力の事実は否定することができません」、さらには「わたしたちは、自らの愚かさを自覚したうえで、戦争責任について自省し、アジア太平洋戦争地域の人々の人権と尊



『教化研究』24号、25号

## 戦時資料検証の意義

理に参加した研究員たちによる論考も法然上人八百年大遠忌記念論文集『現代社会と法然浄土教』（山喜房佛書林、2013年）に寄稿されている。

以上、他宗派の動向を参照しながら、浄土宗の「戦争責任」の表明ならびに平和活動の取り組みを概観した。浄土宗の戦後75年を振り返った場合、とりわけ、平成20年（2008）の「浄土宗平和アピール」が「戦争責任」表明の重要なメルクマールとなること、また、平成23年度以降、総合研究所が中心となって戦時中の資料収集と整理が着手され、一定の成果がもたらされたことがわかった。しかし、収集された資料の歴史的検証は、これからである。それを担当するのが、戦後浄土宗の平和活動を牽引してきた浄土宗平和推進協議会を継承する本協会であり、専門委員会がその重責を担うことになる。

「浄土宗平和アピール」では、その冒頭、「愚者の自覚を、家庭にみ仏の光を、社会に慈しみを、世界に共生を」と宣示した21世紀劈頭宣言が引用されている。本協会による戦時資料検証事業が「社会に慈しみを」もたらし、「世界に共生を」実現することにならずかでも寄与できればと、切願する。

浄土宗の「戦時資料」に関する  
専門委員会委員名簿

- ◎大谷栄一氏（佛教学大学教授）
- ◎原田敬一氏（佛教学名誉教授）
- ◎小林惇道師（浄土宗僧侶・東京教区妙定院副住職）
- ◎武田道生師（浄土宗僧侶・東京教区龍泉寺住職）
- ◎加藤良光師（浄土宗僧侶・三河教区普仙寺住職）

厳を侵し、戦争による惨禍と多大なる犠牲を強いことを、ここに深く懺悔します」と、戦争責任を表明している。そして、「非戦・非核非武装を誓い、未来に向かって慈しみにあふれた共生・平和の社会を創るために行動することを、ここに宣言します」と結んでいる。

平成6年（1994）の法要・つどいは、まさに他宗派の戦争責任表明の時期と軌を一にしたものであり、「浄土宗平和アピール」は対外的に「戦争協力」「戦争責任」（を踏まえた共生・平和の社会のための行動）を示したメッセージだったといえよう。

## 戦時資料の収集と整理から歴史的検証へ

冒頭で言及したが、「浄土宗平和アピール」では戦時中の浄土宗の活動の歴史的検証の重要性が説かれた。なお、平和アピール公表の8ヶ月前、平成20年（2008）3月の宗議会では、戦争に協力してきた浄土宗の近現代史の検証作業を本格化することを、当時の内局が表明している（『京都新聞』2008年3月8日）。

こうした動向を踏まえ、そのための基礎資料の収集と整理が本協会と総合研究所（以下、総研）の共同作業によって取り組まれた。すでに総研では平成18年度から「浄土宗近現代史の総合研究プロジェクト」を立ち上げ、戦時期だけにとどまらない浄土宗近現代史の資料収集と整理に着手していた（『教化研究』19号、2008年）。

戦時資料の収集と整理は、総研が中心となって平成23～25年度に実施された。その成果は、「浄土宗関連資料の整理研究班」による報告「戦時を中心とした時局教化資料」（『教化研究』24号、2013年）、「昭和二〇～三〇年代発刊の『宗報』に見られる戦後の対応について」（同25号、2014年）にまとめられた。また、資料整

# ブック・ギフト2019報告

## 「平和への想い」を綴り 今年28名から応募

浄土宗平和協会の主事業の一つである私費留学生図書支援ブック・ギフトが、今年も東京、関西（京都）、名古屋地区で開催され、12月初旬、3カ所で合計28人が希望する図書を受け取った。今年の小論文のテーマは「平和への想い」。留学生らしく、各国の価値観を思わせるそれぞれの「平和」を綴った小論文に、気づかされることが多くあった。

ブック・ギフト in Tokyo は、今年で12回目。都内の3大学から4名の応募があった。12月8日の図書授与式は、大本山増上寺大殿にて行われ、法要では大本山増上寺執事・井澤隆明師に導師をお勤めいただき、今後も勉学に励まれるようにと激励のお言葉を述べられた。国際仏教学大学・張美僑さんから留学生を代表してお礼の言葉があった。広瀬卓爾浄平協理事長からは、一人でも多くの留学生が参加されるよう、声をかけてほしいと要請などを話された。

ブック・ギフト in Kansai は12月15日大本山百萬遍知恩寺に於いて開催され、近畿各地の私費留学生15名が参加した。7大学からの応募があったにも関わらず、全てが中国から留学生という珍しい応募状況であった。当日は御影堂でお勤めをし、留学生も一緒に一枚起請文を拝読し百万遍数珠繰りを行った。その後、場所を

移し図書贈呈式を執り行った。大本山百萬遍知恩寺法主・福原隆善台下より、留学生一人ひとりに希望の図書が贈呈され、激励の言葉がかけられた。陳泓宇さんのお礼の言葉に続いて、山北光彦浄平協副理事長からご挨拶があった。

ブック・ギフト in Nagoya では、ベトナム3名、中国3名、ウズベキスタン1名、韓国1名、ペルー1名と5カ国5大学9名の留学生から応募があった。12月15日、建中寺本堂での授与式では、抹茶の接待を受けるなど日本文化の一端を体験した後、村上真瑞建中寺住職に導師をお勤めいただき法要を行なった。その後、村上師より留学生一人ひとりに希望図書を贈呈いただいた。ザキロヴ・ディルシヨドベックさんのお礼の言葉、広瀬卓爾浄平協理事長の挨拶の後、深谷雅子浄平協副理事長を中心に、輪になって歓談を行った。

三カ所合計で、大学院生15人、学部生13人、各会場で昨年に引き続いて応募した、という声が多く聞かれた。ある学生は、「希望する図書が高額で購入できず、図書館で借りたものには書き込みをたくてもできなかったが、これで書き込みができる」と喜びの声を口にしていた。次ページからは、授与式に参加し、各会場で代表としてお礼の言葉を述べた留学生の感想を紹介する。

### ブック・ギフトで私費留学生に贈呈した書籍

折口信夫 民俗学の場所、誰でも読める日本古代史年表一ふりがな付き、文化財/文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護、和の国の神さま、日本文学史、キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者、データ指向アプリケーションデザイン、キタミ式イラストIT塾 応用情報技術者、ゼロから作るDeepLearning②、深層学習、言語処理のための機械学習入門、東京大学のデータサイエンティスト育成講座、仏典はどう漢訳されたのか、六朝隋唐仏教展開史、日韓交流と高麗版大蔵経、誠信心理学辞典 新版、学習・言語心理学、健康・医療心理学、感情・人格心理学、よくわかる信号処理、よくわかる通信工学電子回路入門、コンピュータシステムの理論と実装、7つの習慣ティーンズ、平成農業技術史、百姓が書いた有機・無農薬栽培ガイド、光・無線伝送技術の基礎と応用、量子情報の物理、量子光学、誤り訂正符号入門（第2版）、実践日本語教育スタンダード、文節の文法、初球を教える人のための日本語文法ハンドブック、中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック、Out put、1分で話せ、FACTFULNESS、2000社の赤字会社

を黒字にした社長のノート、臨床のための脳と神経の解剖学、ニュースベックテキスト応用情報技術者2020年度、公式TOEIC Listening & Reading問題集5、母語をなくさない日本語教育は可能か、外国人の子どもと日本の教育不就学問題と多文化共生の課題、多文化教育の国際比較 世界10カ国の教育政策と移民政策、ヨーロッパにおける移民第二世代の学校適応、日本語コミュニケーション辞典、てにをは辞典、中学 見て学ぶ国語、日本語類義表現と使い方のポイント、続・仏画のすすめ（新装改訂版）、仏画巡礼 仏との出会い、観音百態 鑑賞と描法、写仏のすすめ、ジャケット・立体裁断 DRAPING&PATTERNMAKING、ドレーピング完全講習本、新しい部分縫い、パターンメイキングの基礎、みんなのPython 第4版、Rプログラミング本格入門：達人データサイエンティストへの道、退職なことはPythonにやらせよう、スポーツクライミング教本：完全図解、六朝隋唐仏教展開史、仏典はどう漢訳されたのか、朱子学と陽明学、新・先住民の「近代史」、ImageJではじめる生物画像解析、植物生態生理学 第2版、モデル植物の実験プロトコル：

シロイヌナズナ・ミヤコグサ編、改訂バイオ試薬調整ポケットマニュアル、希土類の化学、フロンティア軌道論で理解する有機化学、知っておきたい有機化学反応、新・霊長類学のすすめ、Essential細胞生物学（原書第4版）、角川新字源（改訂新版）、昆虫生態学、ジャヤンタ研究 中世カシミール文人が語るニヤヤ哲学、ワトソン遺伝子の分子生物学、カッツング薬理学エッセンシャル、トボロジャー入門：奇妙な図形のからくり、古代東アジア世界史論考（改訂増補）、世界歴史体系 朝鮮史〈2〉近現代、科学 中国の試験地獄（改版）、カンデル神経科学、異常値の出るメカニズム、アトキンス生命科学のための物理化学、ヴォート基礎生化学、詳解量子化学の基礎、アメリカ版大学生物学の教科書進化生物学、コーポレート・ファイナンス〈上〉（第10版）、コーポレート・ファイナンス〈下〉（第10版）、東洋文庫 科学史、世界の教科書シリーズ 東アジアの歴史、理性・真理・歴史：内在的実在論の展開、Essential細胞生物学、詳解物理学の基礎、アンドロメダ銀河のうずまき：銀河の形に見る宇宙の進化

## 落ち込んだ時に救ってくれた ブック・ギフト

国際仏教学大学院大学 張 美僑



ブック・ギフト in Tokyoで法要にのぞむ留学生

令和元年12月8日に、自身2回目の受賞者として、浄土宗平和協会に応募いたしました三冊の本を、芝の増上寺本殿にて拝受いたしました。

当日はお釈迦様の成道の日ということで、いいご縁に恵まれると信じ早めに増上寺に参拝したいと思いましたが、到着したのは予定より遅くなってしまい、大変ご迷惑をおかけいたしました。急いで駆けつけ本殿に入った瞬間、私は増上寺のご住職様のお念仏を聞いて合掌をいたしましたら、すぐに平静な気持ちになりました。その時の気持ちは非常に心地の良いものでした。

日本での生活が3年目を迎えた私は、博士論文を書いている時など、人生の孤独感もよく感じています。論文を書いている良い考えが浮かばない時や、試みが失敗した時などは人生が崩壊してしまうのではないかとこの気持ちになることもあります。そのような時に、いつも友人たちは温かい言葉で励ましてくれました。私は弱いタイプなのかもしれませんが、落ち込んだ時に誰かに助けて欲しいと思うのも、また人間というものではないかと思えます。

12月8日のあの頃には、色々なことがあり気持ちの面で全く落ち着くことができませ

んでしたが、貴協会のブック・ギフトのおかげで、だんだんと安心した気持ちに戻ることができました。このご縁に心から感謝しております。

今回拝受いたしました本のうち、馬場久幸先生の『日韓交流と高麗版大蔵経』は、高麗版について研究した専門書ですが、私の研究テーマである『大般若経』について多く言及しており、文献学の先行研究のうち参考にするべき本です。また、船山徹先生の『仏典はどう漢訳されたのか』という本の中では、「中国で手を加えて成形されたもの」を「編輯経典」という概念で提示しています。玄奘は中国の従来の学説に対して疑問を持ち、印度に16年ほど留学しました。帰国してから休まずに訳経事業に没頭した玄奘は、どのような理由によって膨大な量である『大般若経』を翻訳したのか、また六百巻の『大般若経』にはどのような特徴があるのかについて、私は研究をしたいと思っております。

### 2019ブック・ギフト贈呈内容

- 応募者数  
東京…4名、関西…15名、名古屋…9名
- 授与式参加者数  
東京…4名、関西…15名、名古屋…9名
- 応募者国  
東 京…中国4名  
関 西…中国15名  
名古屋…ベトナム3名、中国3名、ウズベキスタン1名、韓国1名、ペルー1名
- 応募者大学別一覧（応募者数順）  
東 京…東京工業大学2名、青山学院大学1名、国際仏教学大学院大学1名  
関 西…京都大学5名、近畿大学4名、成安造形大学2名、大阪大学1名、大阪市立大学1名、関西大学1名、神戸女子大学1名  
名古屋…愛知県立大学3名、愛知教育大学2名、名古屋経済大学2名、名城大学1名、名古屋工業大学1名
- 応募者在籍一覧  
東 京…大学院4名  
関 西…大学院8名、大学7名  
名古屋…大学院3名、大学6名

## 宗教、思想、信条を超えた 慈しみに感謝

京都大学大学院 陳 泓宇



ブック・ギフト in Kansaiで数珠繰りする留学生

この度は、ブック・ギフトのご支援をいただき、心から感謝しております。

ご採用いただけたおかげで貴重な専門書を手に入れました。もともとはアルバイトをして本の費用を補填するつもりでしたが、ご支援のおかげで、学業に集中して取り組めるようになりました。

贈呈式の当日はわくわくした気持ちでいっぱいでした。中国人に言わせば、お寺は町から離れた場所に静かに佇む、世界から隔絶された建物というイメージが強いでしたが、百万遍知恩寺では、学校の隣、百万遍交差点のすぐそばにありまして、毎日通学通りかかる馴染みの場所です。

当日手作り市という行事もありまして、非常に賑やかでした。儀式に参加する前に少し巡ってみたら、手作りパンやお漬物、アクセサリーなど様々な雑貨が並べられており、見て歩くだけでもとても楽しめて、日本のお寺は人の生活に近いと感心しました。それからお寺の方に案内していただいて、百万遍知恩寺の

歴史を聞いてから御影堂で念珠繰りを参加しました。みんなで一緒にひとつの念珠を持ち、「南無阿弥陀仏」と称えながら数珠を繰りました。法然上人の知恵をいただければと存じます。落ち着いた雰囲気での厳かな儀式でした。

次に、福原隆善法主様の話を聞いて図書を受け取りました。最後にお茶とお菓子を美味しくいただきました。記念品の御守りも大切に使用させていただきます。

儀式中ブック・ギフトプロジェクトは1万人のお坊さんから集まった寄付金で支えられていると聞いて、胸がいっぱいになりました。お坊さんも決して贅沢な生活を送っているわけでもないのに、会ったこともない留学生に手を貸してくれました。この宗教、思想、信条を超えた慈しみに感謝します。

調べてみましたら、知恩寺は法然上人の弟子・源智上人が師の恩徳をしのび、「恩を知る寺」として建立した寺と言われています。私も常に求知のこころを忘れず、いつか社会に恩返しができるようにより一層学習に励みたいと存じます。最後になりましたが、ご支援をくださった全ての方々へ心よりお礼申し上げます。



ブック・ギフト in Kansaiの授与式にて福原隆善台下よりご垂示を賜る

## 浄平協と私たちが目指す 平和な将来への次のステップへ

名古屋経済大学 ザキロヴ・ディルシヨドベック

この度は、浄土宗平和協会の図書授与式にて表彰していただき、誠にありがとうございます。心より感謝を申し上げます。

今日、授与される図書を通じて、皆様と共にこれからの勉学や研究にてさらに良い成果を出せることを努めてまいりたいと思います。

日本での留学が平和の将来を作るための基礎になるように頑張っています。

今回、私はブック・ギフトを2年連続でいただきました。去年より今年の作文のテーマは少し難しかったと思いますが、私たちが、「将来自分だけではなく、世の中の平和のために頑張るべきだ」ということ思い出すチャンスにはなったのではないかと思います。

去年も今年もブック・ギフトで特にビジネスに関する図書をいただきました。なぜなら、来年から母国のウズベキスタンで自営の日本車ディーラーを設立したいと思っていて、それで大学では勉強できない会社を経営する時に不可欠な知識を身につけたいからです。

将来、私が経営したい会社を通じて、失業率が高い母国の多くの人に仕事を与え、できるだけ多くの方が豊かな生活ができるために頑張りたいです。そうすることで、平和な将来に少しでも貢献できるのではないかなと考えています。

母国・家族から離れ、日本にて留学中ではありますが、このような勉学や研究へのサポートをいただけるのは、将来に向けてより良い成果を出せるためのモチベーションになると信じています。

我々留学生の日本での留学が終わったというのは、日本との関係も終わるのではなく、浄土宗平和協会と私たちが目指している平和な将来への次のステップが始まるという意味だと考えます。これからも、勉学・研究に力を入れて、世の中の幸せのために全力をつくしていきたいと思っています。

来年、他の後輩たちと一緒に応募したいと考えていますので、今後ともよろしくお願ひします。



ブック・ギフト in Nagoyaで留学生のみなさんと

浄土宗立・宗門学校に在籍の  
高等学校生徒対象の新事業

第1回平和作文コンクールを開催

浄土宗平和協会では、浄土宗立・宗門高等学校に在籍している生徒を対象にした、第1回平和作文コンクールを開催した。

本事業は、次代を担う高校生の「平和」への想いや考え等々を知り、浄土宗寺院ならびに教師が、若い世代に対し「平和」について働きかけるために今後取り組むべきことを見つけることを目的として、本年度に創案されたもの。

昨年7月に、今回は芝高等学校、東海学園高等学校、東山高等学校、上宮高等学校、鎮西高等学校、真和高等学校、樹徳高等学校、京都文教高等学校の8校を対象に募集、「平和への想い」をテーマにした作文が51作品寄せられた。

応募作品に対し、東山高等学校校長代行・福地信也先生を審査委員長に、正副理事長、事務局長の5名で厳正に審査をした結果、総裁賞1名、副総裁賞2名、理事長賞2名、学校賞1校を決定した。

表彰は、該当生徒が在籍する高等学校において、学校長から荣誉を讃え表彰状を授与していただき、応募者全員に参加賞を配布した。

今号では、全受賞作品を掲載し顕彰すると共に、趣旨の通り高校生の「平和」への想いや考えに触れていただければ幸いである。

○応募状況

- ・真和高等学校……………24作品
- ・樹徳高等学校……………20作品
- ・芝高等学校……………6作品
- ・京都文教高等学校…1作品

○審査結果

- ・総裁賞（1名）  
真和高等学校1年生・味園結璃さん
- ・副総裁賞（2名）  
京都文教高等学校3年生・山本芽衣さん  
芝高等学校2年生・川野眞雅さん
- ・理事長賞（2名）  
樹徳高等学校3年生・天笠夢莉さん  
真和高等学校2年生・小林 翠さん
- ・学校賞（1校）  
真和高等学校

総裁賞

今年で終戦から七十三年を迎えた。平成から令和に時代が大きく変わっていくと共に、戦争を実体験として記憶している世代はほとんど少なくなくなっている。恐らく私達が日本が経験した戦争を実体験として聞くことのできる最後の世代だろう。しかし、戦争を知ることは辛いし、目を背けたくなることも多い。小学校の修学旅行で長崎を訪れた際に語り部さんから当時の様子を聞かせていただいたのだが、その日は一日中気分が上がりずお土産を買う気力も失せてしまった。先ほどまでワイワ

平和への連鎖

真和高等学校1年

味園結璃

イと賑やかだった同級生も静まり返り多少のトラウマになっていくのだが、この感覚こそが大切だったんだと今になって思うようになった。とりわけ日本にいると戦争を実感を持って意識できる人は殆どいないだろう。大切なものは失って初めて気付くとよく言うが平和がまさしくそれだと思う。毎日同じような、代わり映えない日常を退屈に思える事はとても贅沢で恵まれていることなのだと思う。この恵まれた状況を意識するためにはまずは戦争ときちんと向き合わなければいけない。ちゃんと知って、戦争は絶対にしてはいけない、起きて欲しくないという想いを人からではなく自ら持つことが必要だと思う。

また、家族、そして学校の友達、私に関わってくれる人を大事にしようと思う。私ができることは小さな小さなことだと思う。ただみんなが一番身近な人を大切に思うだけで、平和は実現されていくのではないだろうか。

「平和」というととても壮大なことに思えて何からすれば良いのか途方に暮れてしまふ。けれども、それぞれが身近な人の幸せを願うという素敵な当たり前の連鎖が繋がっていけば平和はすぐそこにあるものだと思うし、私はそう信じている。

第	1	回							
平	和	作	文	コ	ン	ク	ー	ル	

## 副総裁賞

第	1	回							
平	和	作	文	コ	ン	ク	ー	ル	

両手を広げて、くるりと回る。私の円の半径は八十一センチ。どうして私は、たった「八十一センチ」を平和に保つことができないのだろうか。

日本という国自体が戦争を放棄していても、私達の日常は戦争だらけだ。自分が得をするために他人を貶め、すぐに差別をしようとす。現に私も、保身のために無関係な人間を傷つけてしまうことが多い。最も恐ろしいのは、私たちがこの現状に慣れてしまっているということだ。

自分の周囲の平和すらも、自らの手で壊してしまう私達が、この先ずっと、他国と争わないという選択をし続けることができるのは、到底思えない。少なくとも現在、私達がとっている日々の行動は、平和を望む者の姿勢とは、全くかけ離れたものであるはずだ。

今、隣にいる人の目を見てみて欲しい。できれば手をとって。そして、その人が自分にとってどんな相手であろうと、その人の全てを「許す」ということをして欲しい。競争社会の中で、私達は「許す」という行為にひどく怯えを感じているような気がする。まるで、許し合わないことが社会の厳しさであり、それが正常な状態であると、正当化されているようにも思える。しかし、国同士の争いも、過去の歴史上の誤りや、相手国の正義を許し合えないことが原因であるのだから、これがどんなに勇気のいる行為だったとしても、正当化したまま、放っておくわけにはいかないのだ。

## 真の平和主義者になるために

京都文教高等学校3年

山本芽依

まずは一人、目の前の相手と向き合い、マイナスイメージを昇華させ、憎しみの生まれない関係を築くことを意識すべきだ。漠然と国の平和を祈る前に、私達は日常の戦争を無くしていかなくてはならない。「ごめん」と言われれば素直に許し、罪の意識に苛まれる人間をつくらない。苦しい顔を見つけたら、誰彼構わず手を差しのべる。そんな人間を許さない人間はそうでもないだろう。人を許すことは、自身が許される人間になることにつながるのだ。

戦争のない国で、私達は日々、孤独に戦っている。時として、私達は言葉の刃で人を傷つけ、厳しい社会のシステムによって人を殺めることもある。絶え間なく流れる不幸なニュースに、私達はもう、驚かなくなった。

本当に、この国の平和維持、さらには世界平和を望むのであれば、第一に手を繋ぐことのできる距離にいる人間と共に、平和な環境を作り出し、それを維持し続ける努力をしなければならぬ。自分の行く先々で常に平和な円を作れるようになれば、平和の予兆は確実に広がっていく。

度と黒い雨を降らせないために、誰一人涙を流すことのない幸福で満ち溢れた社会の実現へと、私達は進んでいきたい。

## 副総裁賞

第	1	回							
平	和	作	文	コ	ン	ク	ー	ル	

終戦から七十四年経った今日の日本の若者にとって戦争とはあまりにも縁遠いものである。もちろん僕もその中の一人だ。そんな僕が今回応募したのはとある戦争体験者の方のお話を拝聴できた機会があり、多くのことを考えさせられたからである。

お話をしてくださった方が体験されたのは沖縄戦上における疎開生活だ。疎開とは言っても沖縄戦において沖縄本島に安寧な地は無く、すでに戦闘機の音に怯える日々、加えて一人、また一人と亡くなってしまふ家族を見なければならぬという苦痛を感じながら逃げ続けるといふ本当に過酷な生活だったという。

話を聞くだけでも心が痛むのに、実際に体験された方の苦悩は安易に想像できるものではないだろう。そう思いながらも自分が戦争のある時代に生まれなくてよかったと安堵したのも事実だった。

もう一つ僕がお話を聞いて感じたことがある。それは僕自身が今生きているということだ。

僕の祖母は当時広島県に住んでいた。当時3歳だった祖母は奇跡的に家族と共に生き残ったけれど、知り合いの中には家族ごと亡くなってしまった人がいたり、皮膚が溶けてしまっている人がいたりしたようだ。今の僕がいるのは祖母の奇跡があったからだとしみじみと感じた。

## 平和への想い

芝高等学校2年

川野眞雅

このように現代の若者の中にも間接的に自分の命と戦争が結びついていている人は多いだろう。だからこそ今の平和に甘えることなく、昔の人々の惜しみない努力と平和を切に願ってきた思いをよく考える必要があると思う。

僕が小学校2年生の時、夏休みに広島にある祖母の家に遊びに行った。ちょうどその頃、広島県にある平和記念公園で近隣の小中学校生が全員参加する追悼式が行われていた。小中学生でもなぜ追悼式をするのかは分かっている。皆本心に真剣であった。しかしそこには年配の方々とは明らかに異なることがあった。それはよく覚えている。それは涙の有無である。実際に戦争を体験した人とそうでない人では追悼に向けての思いの重さが違うのだろう。

僕は追悼式の後、平和記念博物館に連れて行かれた。当時の町並みや原爆投下後の人々の様子が展示されていた。当時の僕にとってそれらは本当に怖かったのだろう。全てを見ずに走って外に出たのを覚えている。今思えば昔の方が戦争に対する恐怖心というものを感じていたのかもしれない。

現在の平和な環境は、そこに身を置く人々に戦争という恐怖を忘れさせてくれるある種の麻薬のように感じる。人々を安心させる反面、中毒性が強いので身の危険に対する耐性が著しく弱まる危険性もある。世の中が平和なのは素晴らしいことだが、人々が危機感を持って、初めて真の平和と言えるとと思う。



### 茂田眞澄専門委員がご遷化

当協会の専門委員を長年お務めいただいた茂田眞澄師が8月4日にご遷化されました。

茂田師は、カンボジアの大虐殺と難民問題を目の当たりにして、僧侶として国際協力や人権問題に取り組みました。93年に「アーユス仏教国際協力ネットワーク」を設立し、理事長としてNGO支援に尽力。浄土宗のみならず日本の仏教教団の社会貢献というジャンルに大きな影響を与えました。

当協会の前身の浄土宗平和推進協議会の頃から、アーユスでの経験をもとに特にNGO支援事業に尽力いただきました。

### 名越邦博理事が宗務役員に就任

平成30年度より理事をお務めいただいている名越邦博師が、令和元年12月1日付で浄土宗宗務役員に就任されました。それに伴い、当協会の理事を退任されることになりました。今後は、宗務役員として大所高所から当協会をご指導いただけるものと思えます。

なお、後任理事は令和2年度の総会にて選任します。

### 日本国際ボランティアセンターが活動報告に

去る1月30日に、支援団体の一つである日本国際ボランティアセンターの今井高樹代表を始め3名が浄土宗宗務庁を訪問、広瀬理事長、山川事務局長に支援事業の経過報告をされました。

現地の担当者が帰国したタイミングにあわせて、南スーダンでの支援活動の意義、内容を具体的に報告され、我々の支援の活用状況についても報告されました。

これらの内容は、ぜひ広く会員にもお伝えいただきたいと、次の総会でも報告をいただくこととなりました。どうぞご期待ください。



## 「第12回浄土宗平和賞」×切り迫る ～ぜひ多くの推薦をお願いします～

社会参加のお寺を支援し、顕彰する「浄土宗平和賞」（JPA主催）の推薦締め切りが、3月15日に迫っています。

この賞は、浄土宗の教義を広め、儀式を行うという寺院の活動にとどまらず、「社会参加する仏教」を志向し、平和活動、環境保護活動、国際交流活動、社会貢献活動など、幅広い分野で公益のための活動を行っている浄土宗寺院・教師または浄土宗教師が代表（中心的な役員）を務める団体を顕彰し、支援するものです。また同時に浄土宗平和協会の広報誌「ダーナ」などを通じて受賞寺院（浄土宗教師）の活動内容や、ノウハウなどの情報を提供し、活動事例として各会員の社会参加型事業への取り組みを啓蒙、醸成することを目的として創設されました。

平和賞という名称から反戦・反核などの政治的平和運動や海外の紛争地域における貧困や医療、また教育に関する対策といった海外援助を連想される方も多いと思いますが、それらに限定されることなく、地域や各コミュニティで公益のために活動することは共生の理念の発露であり、おのずと世界の平和に寄与するものと考えます。

また数々の活動事例を提供し、浄土宗寺院や教師の社会参加を推し進め、宗教的救済と共に社会への働きかけを促し公益に資する未来の寺院のあり方を模索して行きたいと思っています。

#### ◆賞の内容

賞状・副賞（50万円）

#### ◆表彰対象

1. 浄土宗寺院・教師
2. 浄土宗教師・寺族が代表（中心的な役員）を務める団体

#### ◆選考方法・表彰

本協会の役員会において選考し、浄土宗平和協会総会の席上、表彰し副賞を授与します。

#### ◆募集方法

1. 公募（自薦他薦問わず）
2. 教区長、教化団長、教化センター長、並びに浄土宗平和協会会員による推薦

#### ◆応募・締切

応募の締切は令和2年3月15日迄です。

#### ◆平和賞の活動事例として

- ・国際交流団体を寺族及び檀信徒が中心になってつくり、海外の恵まれない人々への教育・医療・福祉その他の人道支援を継続的に行っている。
- ・日本で生活する留学生に奨学金を送り、生活の支援を行っている。
- ・日本文化の紹介のために、地域と一緒に、寺を会場にお茶やお花、能楽などのフェスティバルを行い国際交流を図っている。等

#### 《推薦書送付先／お問合せ》

JPA事務局（平和賞担当：池野亮光）  
〒610-0111  
京都府城陽市富野堀口103 正行寺内  
TEL：090-2286-2882  
FAX：0774-52-4787  
E-mail：info@jpa-jodo.or.jp

# 浄土宗平和協会(JPA)

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。

## 入会要項

浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

### 正会員

対象……浄土宗教師・寺族  
会費……年間 10,000 円

### 賛助会員

対象……檀信徒、企業や宗教法人以外の団体  
会費……檀信徒会員年間 2,000 円  
法人会員年間 10,000 円（一口）

賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダーナに芳名を掲載します。

ご希望の方には詳しい案内が掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を同封いたしておりますのでご利用ください。

## 平和念仏募金のご協力のお願い

平和念仏募金は、各NGOやNPO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

◆平和念仏募金は、平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金に充てられます。

◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する—との方針のもと、NGOやNPOを支援しております。

◆私費留学生希望図書購入支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生の勉学支援をしています。

## 浄土宗平和協会創立30周年記念大会のお知らせ

本協会の前身・浄土宗平和推進協議会が設立された平成2年から30年を迎え、本協会のこれまでの地道な歩みと今後の方向性を策定することに資するために創立30周年記念事業を企画、実施いたします。詳細は後日改めてご案内いたします。

- 期 日…令和2年6月11日（木） 午後2時から午後5時
- 会 場…総本山知恩院 和順会館内「和順ホール」

## 浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……廣瀬卓爾  
副理事長……深谷雅子  
山北光彦  
理 事……東海林良昌  
齋藤隆尚  
小口秀孝  
野上智徳  
山川正道  
永江憲昭  
専門委員……戸松義晴  
大谷栄一  
大河内大博  
参 与……荻野順雄  
川副春海  
監 事……倉井正則  
山下裕通  
事務局長……山川正道  
事務局……池野亮光  
小泉範幸  
霜村真康  
田中堅信  
岩井正道



## 浄土宗平和協会

Jodo Shu Peace Association (JPA)

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 浄土宗社会部  
TEL：03-3436-3351 FAX：03-3434-0744

連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター

〒622-0003 京都府南丹市園部町新町火打谷5 教伝寺内  
TEL：0771-62-0442 FAX：0771-62-1620

メール：info@jpa-jodo.or.jp

郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】